

Avantgarde XD-Series Control

取扱説明書



PC ソフトウェアのインストール

システム要件

Windows または Mac OS 10.5.8 以降がインストールされた、イーサネットまたは USB ポートを持つパソコン。

メモ

お使いの Windows が 32 または 64 ビットか確認するには「コントロール パネル」の「システム」または「PC 情報」で、また Mac OS に関する情報は Apple メニューの「この Mac について」にて確認できます。

ソフトウェアのダウンロードとインストール

以下のウェブサイトからお使いの OS にあったソフトウェアをダウンロードしてください。

http://www.esoteric.jp/products/avantgarde/control_software/index.html

ファイルは通常、(別途指定しない限り)「ダウンロード」フォルダに保存されます。ファイルを完全にダウンロードしたら、ダブルクリックして開き、表示されるインストール手順に従ってください。インストールが完了すると、デスクトップに Avantgarde XD-Series Control アイコンが表示されます (下部の画像を参照)。



Windows は、米国およびその他の国における Microsoft Corporation の登録商標です。

Apple、Mac OS は、米国およびその他の国における Apple Inc. の登録商標です。

その他、記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

イーサネットポートに関する注意

サブウーハーのイーサネットポートは、10M (10BASE-T) 専用です。10M (10BASE-T) に対応するスイッチングハブをご利用ください。

注意!

シグナルプロセッサとオペレーティングソフトウェアは、非常に効果的な「ツール」となり、ユーザーはサブウーハーの動作に対し、重要な調整を細かく行うことができます。

そのため、パラメーターを調整する際は常に注意を払い、専門知識を持った上で行う必要があります。大幅に変更すると、サブウーハーのドライバーやアンプに深刻な損傷を及ぼすおそれがあります。

XD サブウーハーの接続

USB Type-A/B またはイーサネットケーブルで、コンピューターをサブウーハーの背面にある該当の入力端子に接続します。同じコンピューター上で両方の接続を使用することもできます (例: 右のサブウーハーは USB で接続、左のサブウーハーはイーサネットで接続)。

スイッチングハブを使用すると、イーサネットを経由して複数のサブウーハーを同時に制御でき (例: 2/4/6 台の BASSHORN)、既存の家庭内ネットワークの空きポートでも利用できます。コンピューターの USB ポートが複数ある (または USB ハブを利用できる) 場合は、USB 接続で複数のサブウーハーを接続することもできます。

コントロールソフトウェアを開く

図 1



Avantgarde XD-Series Control アイコンをクリックすると、まず Control Center が開きます (図 1)。接続済みで電源が入っている全サブウーハーがリスト表示されます。All Units 以下の括弧内には、オンラインのサブウーハー数が表示されます。接続されているサブウーハーごとに、ステータスライン下に詳細が表示されます。

- ① サブウーハーをミュートにするボタン。ミュート時は赤色です。All Units の行にある同じボタンをクリックすると、接続されているすべてのサブウーハーを同時にミュートにします。
- ② サブウーハーを識別するボタン。このボタンをクリックすると、対応するサブウーハーの LED が数秒間にわたり点滅します。
- ③ サブウーハーの状態を表すシンボル。動作中は緑色で、接続が切れるとグレーになります。接続を確立中は、「Startup...」のメッセージが表示されます。
- ④ 簡易レベルメーターとして機能します。
- ⑤ サブウーハー名が表示されます。ここ、または設定ウィンドウで、名前を変更できます。
- ⑥ サブウーハーのイーサネットまたは USB ポートのハードウェアアドレス (MAC アドレス) が表示されます。このアドレスは、サブウーハー固有のデジタル ID です。
- ⑦ IP アドレスまたは USB ポート番号が表示されます。接続が切れると、Offline と表示されます。
- ⑧ オンラインのサブウーハーの設定ウィンドウを開くボタン。All Units の行にある同じボタンをクリックすると、接続されている全サブウーハーのリストが表示または非表示になります。

グループ

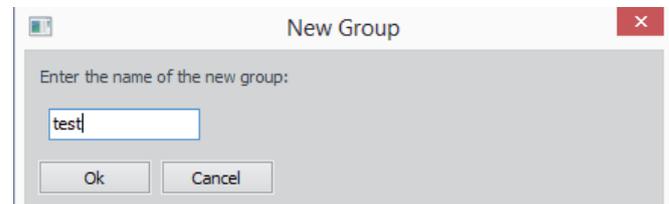
複数のサブウーハーをグループ化して、パラメーターの設定を共有できます (ミュートやレベル設定を一括で行う場合など)。グループの設定で、アクセスできるパラメーターを定義できます。特定のグループに属したサブウーハーは、いつでも変更または入れ換えできます。

新しいグループの作成

新しいグループを設定するには、Tools > New Group メニューを選択します。

ウィンドウが開き (図 2 を参照)、「Enter the name of the new group:」と表示されるので、グループ名を入力し、OK をクリックします。接続済みのサブウーハーのリスト内に新しい行が開き、グループが表示されます (「Group:…」の行)。

図 2



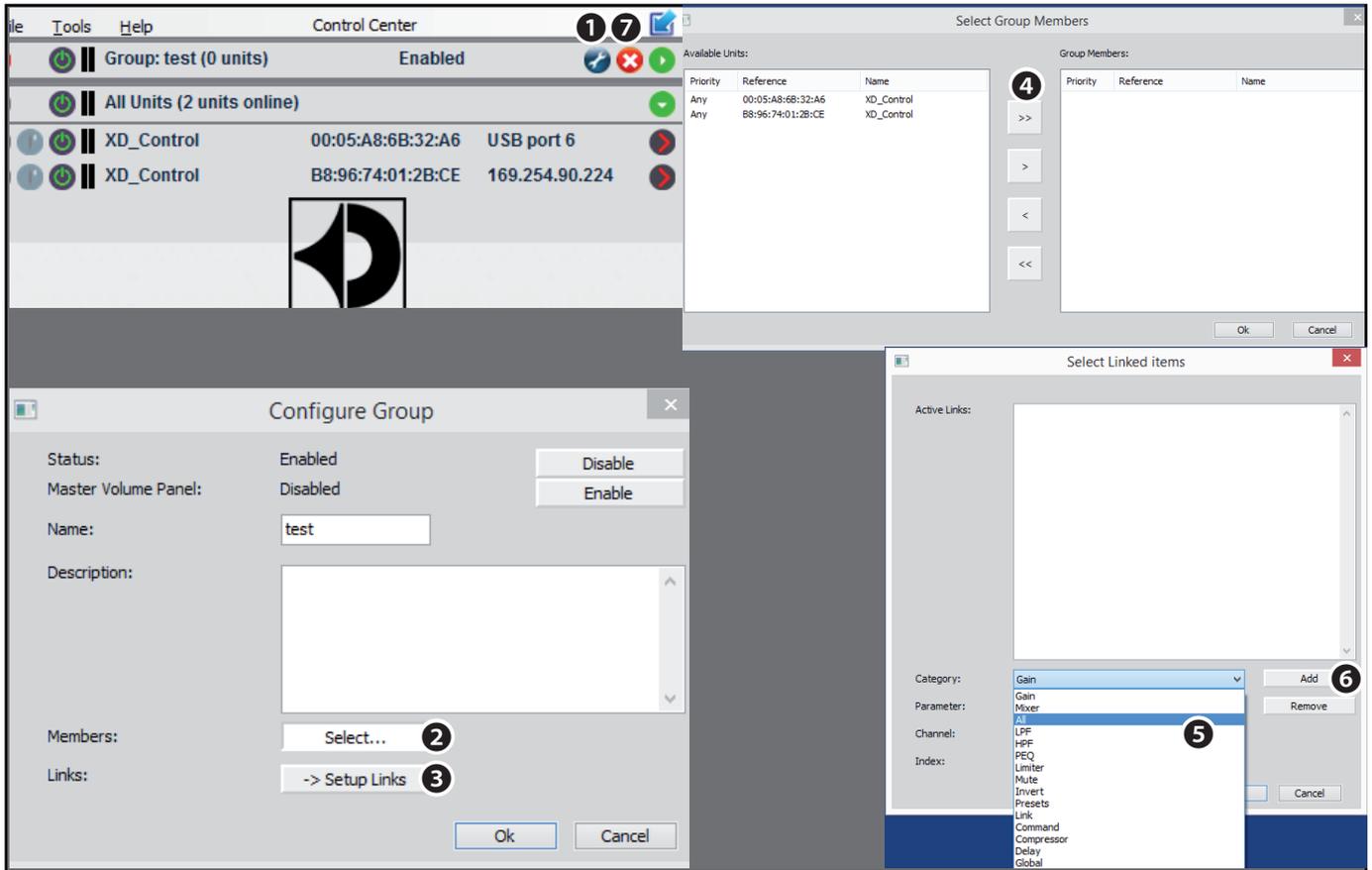


図 3 のボタン①をクリックすると、グループを開き、設定できます。Configure Group ウィンドウに属したサブウーハーを追加または削除できるほか、グループ名や、同時に変更される設定の「Setup Links」を変更できます。

Configure Group ウィンドウのボタン②をクリックすると、Select Group Members ウィンドウが開き、利用可能なグループに属したサブウーハーが表示されて選択できます。次に、ボタン④をクリックすると、利用可能なすべてのサブウーハーが Group Members に移動します。OK をクリックして確定させます。

ボタン③をクリックして Select Linked items ウィンドウを開き、同時に変更できる機能を定義します。Category ドロップダウンメニューの⑤ All を選択してから、⑥ Add をクリックします。Configure Group の OK をクリックして確定します。

これで、いずれかのサブウーハーで実行した変更や設定はすべて自動で転送されます。

グループの削除

グループを削除するには、「Group:...」の行の対応するボタン⑦をクリックします。警告メッセージが表示され、削除の確認を求められます。グループにまだサブウーハーが含まれている場合は、さらに警告メッセージが表示され、削除の実行を再確認するよう求められます。

プログラムのパスワードの変更

パスワードを変更するには、Tools > Change Software Password を選択します。ウィンドウが開き、「Enter Old Password:」と表示されます。工場出荷時の設定であるパスワード「user」を、すべて小文字で、かぎ括弧を付けずに入力してください。次に、「Enter New Password:」行が表示され、ここで新しいパスワードを入力します。最後のステップが「Confirm New Password:」の行です。新しいパスワードはメモしておくことを強く推奨します。

デモモード

サブウーハーをコンピューターに接続しなくても、仮想サブウーハーを作成してプログラムの機能を確認できます。Tools メニューを選択して、Enter Demo Mode をクリックします。接続済みのサブウーハーのリストに、仮想サブウーハー「DEMO…」が表示されます。本物のサブウーハーと同様に、図 1 のボタン⑧をクリックすると設定ウィンドウが開きます。

このモードを終了するには、Tools > Leave Demo Mode を選択します。

プログラムの終了

プログラムを終了するには、File > Quit を選択するか、プログラムウィンドウを閉じます。

XD サブウーハーの操作と設定

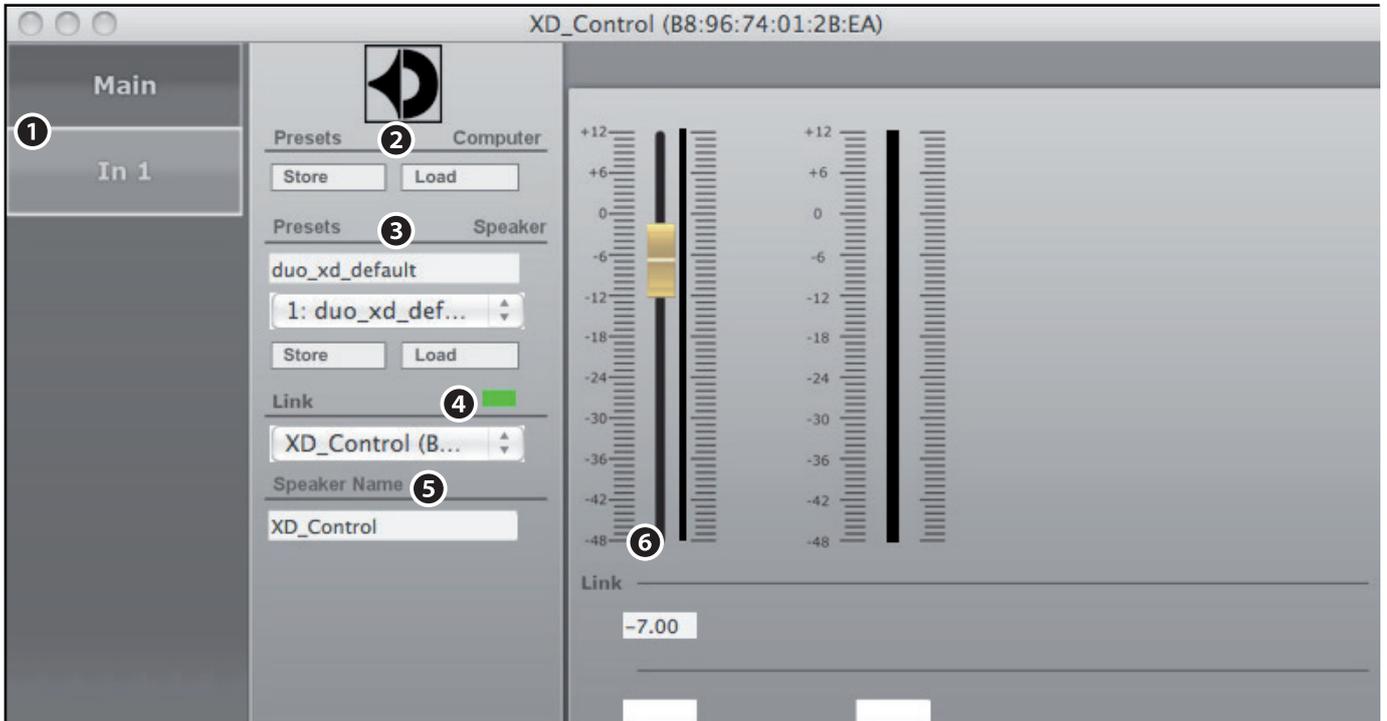
設定ウィンドウにアクセスするには、各サブウーハーの図 1 (2 ページ) のボタン⑧をクリックします。Main 画面に設定ウィンドウが開きます。Main 画面の左側にある色付きの Link フィールドに、各サブウーハーの接続状態が表示され、接続が確立されると緑色になります。

ヒント

図 1 のボタン⑧をすべてクリックすると、接続されているすべての XD サブウーハーの設定ウィンドウを同時に開くことができます（もちろん操作することもできます）。設定ウィンドウは別々のウィンドウとして表示できるように相互に重なり合っており、次の設定ウィンドウを開く前に、設定ウィンドウの空白領域をクリック&ドラッグして脇に寄せます。こうすることで、表示されているすべての設定ウィンドウを画面上に自由に配置できます。

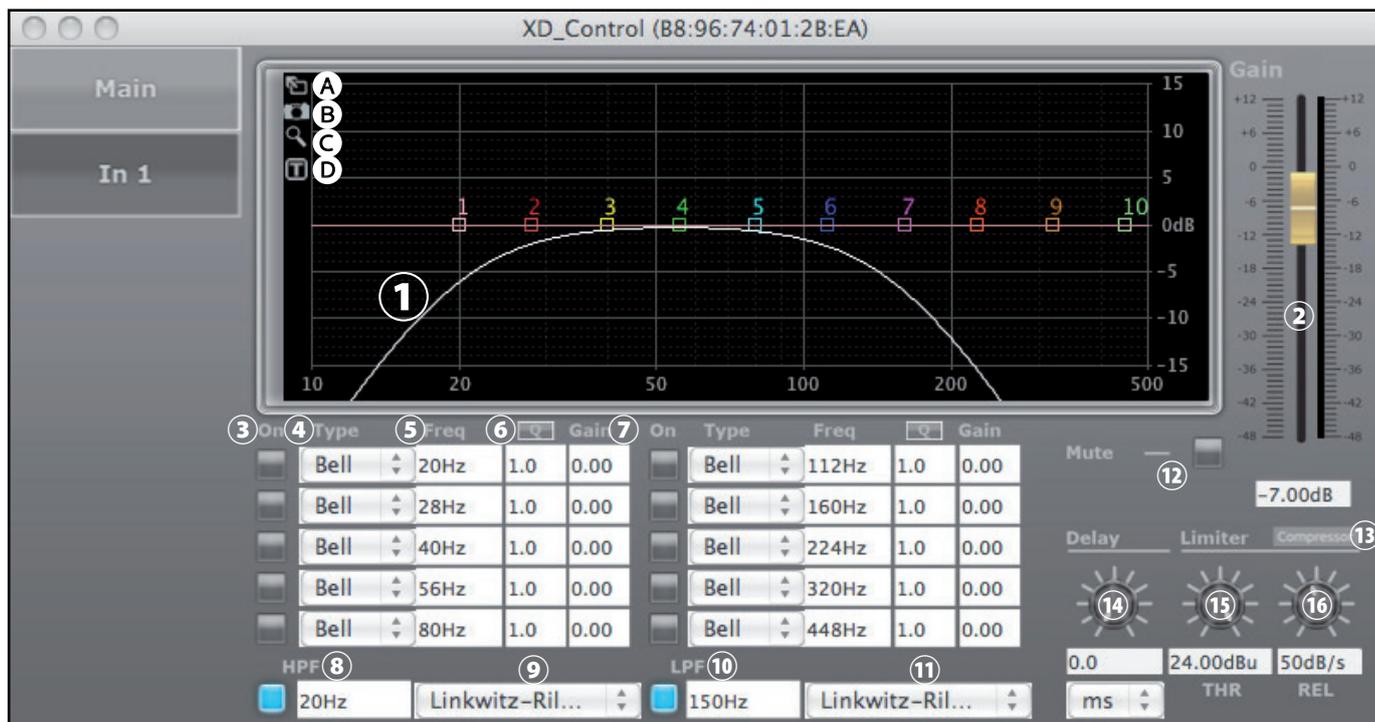
サブウーハーを接続中に変更を加えると、直ちに反映され音の確認が出来ます。設定は、コンピューター (Computer) とスピーカー (Speaker) の両方またはどちらか一方に、プリセットとして保存できます。サブウーハーをオンにすると、必ず最後に設定した内容が有効になります。

図 4 「Main」画面 表示例



- ① 「Main」画面と「In 1」画面を切り換えるボタン。
- ② Presets Computer：現在の設定をプリセットとしてコンピューターに保存（「Store」）（File > Save メニューも参照）、コンピューターからサブウーハーにプリセットを読み込み（「Load」）します（File > Open メニューも参照）。
- ③ Presets Speaker：現在の設定をプリセットとしてサブウーハーに保存（「Store」）または、サブウーハーに設定されているプリセットをアクティベート（「Load」）します。保存は、ドロップダウンリストから任意のプリセットを選択して、上部の枠にプリセット名を入力します。通常はプリセットをサブウーハー（Speaker）に保存することを推奨します。
- ④ Link（接続状態）：緑色＝接続済み、赤色＝接続されていない。
- ⑤ Speaker Name（サブウーハーの名前）：ユーザーは名前を上書き変更できます。
- ⑥ Gain フェーダーでサブウーハーの再生レベルを調節します。右側にレベルメーター表示があり、下部には具体的なゲイン係数を dB で入力する表示および入力フィールドがあります。この入力フィールドでは 0.01 dB の精度で値を入力できます。右側の「空」のフェーダーは使用しません。

図 5 「In 1」画面 表示例



① 現在のターゲットレスポンスを表す曲線：10個のパラメトリックフィルターポイントは、それぞれCenter Point（番号と色が付いた小さな四角）で示されます。アクティブ化されたフィルターの応答結果を、白の曲線で示します。次のマウス操作で、フィルターパラメーターの一部を変更することもできます。

- 四角を水平方向に移動してセンター周波数を調節する
- 四角を垂直方向に移動してゲイン（振幅）を調節する
- マウスの右ボタンを押したまま四角を水平方向に移動して、Q係数（帯域幅）を調節する
- 四角をダブルクリックして、フィルターのオンとオフを切り換える

グラフのEQウィンドウの左上にあるアイコン：

- Ⓐ フルスクリーン表示に拡大したり、元の表示サイズに戻したりする
 - Ⓑ 現在の曲線を画像（PNG）で保存する
 - Ⓒ モードの微調整をオンまたはオフにする
 - Ⓓ アクティブフィルター値の重ね合わせをオンまたはオフにする
- ② Gain フェーダーでサブウーハーの再生レベルを調節します。右側にレベルメーター表示があり、下部には具体的なゲイン係数をdBで入力する表示および入力フィールドがあります。この入力フィールドでは0.01 dBの精度で値を入力できます（図4の⑥と同じ）。

- ③ フィルターをアクティブ化／非アクティブ化するOn/Offフィールド（アクティブ化された状態＝青、非アクティブ化された状態＝グレー）
 - ④ フィルタータイプを選択するTypeリストフィールド
 - ⑤ フィルターのセンター周波数の入力／表示フィールド（値はHzで入力）
 - ⑥ Q/BW（フィルターの帯域幅）の入力／表示フィールド。「Q」フィールドをクリックしてQまたはBWを選択します。
 - ⑦ フィルターのゲイン／振幅を調整する入力／表示フィールド
 - ⑧ HPF（ハイパスフィルター）：低域クロスオーバー周波数の入力／表示フィールド（値はHzで入力、値が20 Hzより低いと「Off」）。左側のフィールドで、フィルターをアクティブ化（青）または非アクティブ化（グレー）できます。
 - ⑨ HPF（ハイパスフィルター）：フィルタータイプを選択するリストフィールド。工場出荷時の設定：Linkwitz-Riley 24dB
- このHPFフィルターは、工場出荷時に設定されたSubsonic（サブソニック）フィルター（20 Hz、-6dB）としてアクティブ化およびプログラムされています。周波数を（1Hzごとに）引き上げることで、LP再生でのサブソニック問題を回避できます。非アクティブ化してレスポンスを20 Hz未満に線形化することもできますが、サブウーハーの最大SPL（音圧レベル）を制限しかねないことに注意してください。**

- ⑩ LPF (ローパスフィルター) : 高域クロスオーバー周波数の入力 / 表示フィールド (値は Hz で入力、値が 20 kHz より高いと「Off」)。左側のフィールドで、フィルターをアクティブ化 (青) または非アクティブ化 (グレー) できます。
この LPF フィルターは、工場出荷時に設定された、ミッドレンジホーンへの Transition Frequency (トランジション周波数) としてアクティブ化およびプログラムされています。また、他の任意の周波数値に変更できます。たとえば、値を引き上げる (1 Hz 単位で可能) ことで、ミッドレンジホーンと意図的に「重なり」を作り、歌声を温かみのある「豊か」なサウンドにすることもできます。
- ⑪ LPF (ローパスフィルター) : フィルタータイプを選択するリストフィールド。工場出荷時の設定 : Linkwitz-Riley 24dB
- ⑫ サブウーハーをミュートにする Mute ボタン
- ⑬ コンプレッサー設定のサブメニューウィンドウを開く Compressor ボタン (後述のテキストを参照)
- ⑭ サブウーハーの再生遅延を意図的に設定する入力 / 表示フィールドを備えた、回転式の Delay ボタン。下部のリストで、単位を時間または距離から選択します (時間の値を入れると、距離は内部で自動計算されます)。工場出荷時の設定 : 0 ms
- ⑮ Limiter (レベル制限) : スレッシュホールド値の入力 / 表示フィールドを備えた回転式の THR ボタン。変更は推奨しません。
- ⑯ Limiter (レベル制限) : リリースタイムの入力 / 表示フィールドを備えた回転式の REL ボタン。変更は推奨しません。

Compressor (コンプレッサー) ウィンドウ

変更は推奨しません。

Back ボタンで「In 1」画面に戻る
 レベル表示 VU および GR (ゲインリダクション)
 スレッシュホールド値の入力 / 表示フィールドを備えた回転式の Threshold ボタン
 アタックタイムの入力 / 表示フィールドを備えた回転式の Attack ボタン
 ホールドタイムの入力 / 表示フィールドを備えた回転式の Hold ボタン
 リリースタイムの入力 / 表示フィールドを備えた回転式の Release ボタン
 コンプレッションレシオの入力 / 表示フィールドを備えた回転式の Ratio ボタン
 SPL 補正の入力 / 表示フィールドを備えた回転式の Makeup Gain ボタン

パスワードの入力

サブウーハーを On にすると、通常は「User」アクセスレベルがアクティブになり、上述のすべてのメニュー、ボタン、フィールドにすぐにアクセスできるようになります。より高いレベルのアクセス権を得るには、Hardware > Enter Password を選択して、適切なパスワードを入力します。

メモ

エキスパートモードへのアクセスは、推奨しません。

パスワードの変更

現在のアクセスレベルのパスワードを変更するには、Hardware > Configure > Change Password メニューを選択します。パスワードを変更するには、最初に現在のパスワードを入力してから、新しいパスワードを入力し、さらにセキュリティ上の理由から、別のフィールドに新しいパスワードを再度入力する必要があります。アクセスレベルが低いパスワードは直接入力でき、はっきりと表示されます。工場出荷時に設定された「User」レベルのパスワードは「user」です。すべて小文字で、かぎ括弧は付けずに入力してください。

ディスプレイ照明

背面の青いディスプレイバックライト自動消灯時間は、Hardware > Configure > Display で調節できます。工場出荷時の設定である Delayed Off が選択されている状態では、最後に設定を行ってから（遅くとも 60 秒後に）表示がオフになります。オフにしたい場合は、このメニューで常に On にするか、または Dimmed (減光) に設定できます。

ロック状態

Hardware > Lock Unit を選択すると、操作をロックできます。

ロックを解除するには、Hardware > Enter Password を選択して、パスワードを入力します（工場出荷時のパスワード「user」を、すべて小文字で、かぎ括弧は付けずに入力してください）。

すべてのプリセットのバックアップ / 復元

その時点で設定済みのすべてのプリセットをコンピューターにバックアップする場合は、File > Backup Presets を選択して、コンピューター上の任意のフォルダを選択します。バックアップしたすべてのプリセットを復元するには、File > Restore Presets を選択して、当該フォルダを指定します。

参考

信号経路について

信号は以下の経路をたどります。

